

1.学会関連情報

○令和3年度の日本保健物理学会第53回研究発表会は、日本放射線安全管理学会との合同大会とすることが決定いたしました。

第3回合同大会(金沢、12月予定) 日本保健物理学会側 大会長 石森 有 (日本原子力研究開発機構)

○「放射性廃棄物処分に係わる生活圏被ばく評価に用いられるパラメータ調査専門研究会」第5回会合のご案内

日時:令和2年10月26日(月)13:00~15:00(予定) WebExによるWeb会議

参加申し込み期限:10月22日(木)

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=220>

○人文・社会科学的視点から考察する自然起源放射性物質含有廃棄物の取扱い専門研究会の第3回会合開催案内

→延期、開催日は調整され次第、改めて御連絡致します。

○放射線防護アカデミア 実効線量と実用量に関するWebinar(全5回シリーズ、オンライン開催)のご案内

第1回「線量の歴史的背景と意味合いー実効線量を中心としてー」

日時:2020年10月30日(金) 16:30~17:30

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=224>

○令和2年度 放射線影響研究功績賞及び同奨励賞受賞候補者の推薦に関するご案内(選考受付期限:2020年11月20日(金))

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=216>

○ICRP「小線源治療における職業上の放射線防護」ドラフト文書(ICRP TG89 ドラフト)への意見募集について

意見提出先:一般社団法人日本保健物理学会 <exec.off@jhps.or.jp>

提出締切:2020年12月18日(金)17:00 必着

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=225>

○IRPA Practical Guidance for Engagement with the Public on Radiation and Risk が10月1日に公開されました。

IRPA の 2016-2020 年タームでのもっとも大きな成果のひとつです。

<http://www.irpa.net/page.asp?id=54821>

○IRPA-15 の開催が 2021 年 1 月 18 日-22 日に延期されました。

各種提出・登録締切も延長されています。詳細は大会 HP にてご確認ください。

<https://www.irpa2020.org>

○若手研究会 ICRP 内部被曝モデルに関するオンライン勉強会

若手研究会では 10 月 25 日より月一回ぐらいのペースで ICRP 内部被曝モデルに関するオンライン勉強会を始めることになりました。

第 1 回 (10 月 25 日) Pub130 第 1 章+Pub68 の対応するところ(予定)

問合せ先:若手研 廣田(hirota-seiko@hiroshima-u.ac.jp)

○訃報

日本保健物理学会名誉会員の市川龍資先生が 8 月 27 日に 92 歳でご逝去されました。謹んでお知らせします。

2. 関連する研究情報

論文紹介

○Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2020 Oct 1;in press. doi: 10.1016/j.ijrobp.2020.09.052.

2020 年 4 月下旬以降、新型コロナウイルス肺炎の低線量放射線治療の臨床試験が 9 カ国で進行中であるが、その主な科学的根拠は、抗生物質が使用される前の時代に、細菌性肺炎やウイルス肺炎の動物モデルを用いた放射線照射実験から得られた報告で、これらは統計解析が実施されていなかった。これらの既報データについて統計解析を実施したところ、低線量放射線治療の有効性を支持する結果は得られなかった。そのため、新型コロナウイルス肺炎の低線量放射線治療の科学的根拠は不明なままである。

Pneumonia after bacterial or viral infection preceded or followed by radiation exposure – a reanalysis of older radiobiological data and implications for low dose radiotherapy for COVID-19 pneumonia.

Little MP et al.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/33011212>

○ J Radiat Res. 2020 Oct 2;in press. doi: 10.1093/jrr/rraa073.

中国の陽江(高自然放射線地域)と恩平(陽江近郊の対照地域)の45歳以上の住民(約940名)において水晶体混濁の調査を実施。陽江住民の平均被ばく線量は 189.5 ± 36.5 mGy。100 mGyでのオッズ比が、皮質白内障と後囊下白内障で有意に増加、核白内障で有意減少傾向。皮質白内障のしきい線量は140 mGy (90%信頼区間 110-160 mGy)と推定(後囊下白内障はしきい線量なし)。

Lens opacity prevalence among the residents in high natural background radiation area in Yangjiang, China.

Su Y et al.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/33006372>

○Journal of Environmental Radioactivity 225 106421.

福島第一原発事故前に採取された試料より、グローバルフォールアウトによるCs-137の、長期的な環境動態の結果としての分布を評価。

Global 137Cs fallout inventories of forest soil across Japan and their consequences half a century later

Ito E et al.

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0265931X20302381>

○Journal of affective disorders, 278 (2020), 244–251

福島の母親のボンディング(絆の形成)のデータをみると全国に比べて有意に低いことが示されており、このことが福島の母親における精神的な健康の悪化に関連する要因のひとつだと考えられる。とりわけ、2011年が特徴的であったことから、震災の年の大きな混乱が反映されている、一方で福島の母親のボンディングが高まることは、精神的な健康の回復にも関わると考えられた。

Antenatal and postnatal association of maternal bonding and mental health in Fukushima after the Great East Japan Earthquake of 2011: The Japan Environment and Children's Study (JECS).

Kuroda Y, et al.

<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0165032720327166?via%3Dihub>

○Behavioral sciences, 2020, 10(10), E149.

福島事故後の避難指示が解除された初年度の村民1405名を対象に面接法による調査を実施し、そのうち「専門的支援の必要性」は13.6%の村民に当てはまることを示した。居住環境別の解析では、専門的支援の必要性は変わらない一方で、村外に家を建てた群において、情緒的・手段的なサポートのニーズが高まっていることを明らかにした。

Relationship between Psychological Factors and Social Support after Lifting of Evacuation Order in Fukushima Prefecture, Japan.

Kuroda Y, et al.

<https://www.mdpi.com/2076-328X/10/10/149>

○Sci Tot Environ. 750, 142346 (2021).

近年、インドネシア・スラウェシ島において発見された高自然放射線地域であるマムジュにおいて屋内外および飲料水中のラドンの摂取による内部被ばく線量、大地放射線による外部被ばく線量を推定した。その結果、多くの住民が年間 20 mSv 以上の被ばくを受けていることが明らかとなった。また、当該地域の屋外ラドン濃度は屋内と同程度であった。大気中ラドン濃度の鉛直分布を解析した結果、特に夜間では生活環境レベルの高度で非常に安定した大気条件になることが高濃度化の要因の一つであることがわかった。

A unique high natural background radiation area – Dose assessment and perspectives

Hosoda M, et al.

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0048969720358757>

○日本原子力学会誌, 2019, 61(4) 290

原子力問題の「リスク」に社会科学的視点から論説。

“社会系”の悲哀を超えて

菅原 慎悦

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaesjb/61/4/61_290/_pdf/-char/ja

3. ニュースや社会の動き

○European Atlas of Natural Radiation が公開されました。

<https://remon.jrc.ec.europa.eu/About/Atlas-of-Natural-Radiation>

○放射線リスクに関する BBC ニュース

<https://www.bbc.co.uk/news/science-environment-54211450>

○ICRP が Publication 143「Paediatric Computational Reference Phantoms」を刊行

<http://www.icrp.org/publication.asp?id=ICRP%20Publication%20143>

○ICRP「放射性核種の職業上の摂取 Part5」ドラフト文書への意見募集が開始されました。

<http://www.icrp.org/consultation.asp?id=13FA0D98-4EA1-43AD-AB1C-FD4BB12E3030>

提出締切:2021年1月15日

専門的なデータ集となりますので、国際対応委員会による意見集約は行いません。

○IAEA 共通安全指針 GSG-14(Arrangements for Public Communication in Preparedness and Response for a Nuclear or Radiological Emergency)を発刊
<https://www.iaea.org/publications/13517/arrangements-for-public-communication-in-preparedness-and-response-for-a-nuclear-or-radiological-emergency>

○IAEA 第64回総会を開催 令和2年9月21-25日
<https://www.iaea.org/about/governance/general-conference/gc64/documents>

○IAEA INSAG Forum on the Implications of the COVID-19 Pandemic を開催 令和2年9月21日
<https://www.iaea.org/about/governance/general-conference/gc64/events/insag-forum-on-the-implications-of-the-covid-19-pandemic>

○日本国政府 第64回 IAEA 総会サイドイベント～福島第一原子力発電所10年の歩み～を開催 令和2年9月21日
<https://comm.stage.ac/seconf64th/>

○IAEA 安全とセキュリティに関する上級規制者会合を開催 令和2年9月24日
<https://www.iaea.org/about/governance/general-conference/gc64/events/senior-safety-and-security-regulators-meeting>

○日本アイソトープ協会 核医学治療 Q&A を公開 (9月24日)
https://ncnmt.jp/_files/200000282-6e9056e90a/A5_%E6%A0%B8%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E6%B2%BB%E7%99%82Q-A.pdf

○放射線影響協会 原子力放射線業務従事者被ばく線量登録管理制度における統計資料(令和元年度)の公表(9月25日)
<http://www.rea.or.jp/chutou/koukai/R01nendo/honbun-r01.html>

○原子力規制委員会 使用済燃料管理及び放射性廃棄物管理の安全に関する条約日本国第7回国別報告について(案) 令和2年9月30日
<https://www.nsr.go.jp/data/000329495.pdf>

○原子力規制庁 東京電力福島第一原子力発電所事故に係る調査・分析の実施状況 令和2年9月30日

<https://www.nsr.go.jp/data/000329223.pdf>

○原子力規制庁 原子炉安全専門審査会及び核燃料安全専門審査会における調査審議事項(案)について 令和2年9月30日

<https://www.nsr.go.jp/data/000329066.pdf>

○原子力規制庁 パブリックコメント:日本原燃株式会社における核燃料物質の加工の事業の変更許可申請書(MOX燃料加工施設)に関する審査書(案)に対する科学的・技術的意見の募集(10月8日)

https://www.nsr.go.jp/procedure/public_comment/20201008_01.html

○原子力規制庁 パブリックコメント:令和3年度から令和7年度原子力規制委員会ネットワークシステムの構築及び運用・保守業務民間競争入札実施要項(案)に対する意見募集(10月9日)

https://www.nsr.go.jp/procedure/public_comment/20201009_01.html

○ふるさと津島「消えゆくふるさと 最後の7つの物語」

<https://www.furusato-tsushima.com/>

4. これからのイベント

○ ICRP 原子力事故からの復興に関する国際会議(オンライン開催、2020年12月1日-4日)
ポスター演題要旨期限 10月31日

<https://www.icrprecovery.org>

○ NCRP ワークショップ「Study of One Million Radiation Workers & Veterans」(Zoom、2020年11月6日の8:30-15:00 EDT)

<https://ncrp.civdigital.com/events/million-workers-veterans-virtual-symposium-2020/>

5. 公募情報、学生・ポスドク受入情報

○公益財団法人環境科学技術研究所任期付研究員(環境影響研究)、11月2日必着

http://www.ies.or.jp/profile_j/profile108_20201102.html

○関西医科大学 附属生命医学研究所アイソトープ実験施設 教務技師、10月26日 必着

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D120091622&ln_jor=0

○公益財団法人放射線影響研究所 分子生物科学部 細胞遺伝学研究室 研究員(任期付)、
2021年03月31日 必着

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D118101426&ln_jor=0

○大阪大学 放射線科学基盤機構附属ラジオアイソトープ総合センター 准教授(任期付)、2020
年11月24日 必着

<https://www.irs.osaka-u.ac.jp/b9d30646b83b3e12d391d6b28f4b3bc47dafa4d8.pdf>

○公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 東日本大震災・原子力災害伝承館
研究員の募集(調査・研究部門)(任期付)、10月30日 消印有効

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D120091804&ln_jor=0

○東京都市大学 原子力メンテナンス工学・原子力構造設計分野 教授または准教授、10月20
日 必着

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D120081447&ln_jor=0

既発行の Newsletter はこちらです。

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/newsletter/page.cgi>

Newsletter にて会員に有益な最新論文やイベント情報等の発信を希望する情報をお持ちの方は、学会事務局へご連絡・お問い合わせください。

— —

【発行】一般社団法人日本保健物理学会

【編集】同コミュニケーション委員会 Newsletter 作成グループ

【発信元】同学会事務局

TEL: 03-6205-4649 FAX: 03-6205-4659

E-mail: exec.off@jhps.or.jp

— —